

1 単元名

点画のつながりと配列 「温かい心」

2 単元目標

- 点画のつながりに関心をもち、配列に気をつけて書こうとしている。（関心・意欲・態度）
- 点画のつながりについて考えたり、用紙全体に対する文字の大きさについて考えたりすることができる。（思考・判断）
- 点画のつながりについて理解し、配列よく書くことができる。（知識・理解・技能）
- 常に線のつながりに気をつけ、用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて書こうとする意識をもつことができる。（書写の日常化）

3 指導上の立場

（1）単元について

本単元では、4文字教材の「温かい心」を題材として、「漢字と仮名」の配列と、1文字のなかでの点画のつながりを意識した書き方を学ぶ。

前学年の「あこがれ」で学習した、次の線へつながるような気持ちで穂先を動かしていく書き方を想起して、「温」「心」について指導する。1文字を書き上げるまで、なるべく墨をつけ直さないで書く習慣を身につけさせたり、点画のつながりを意識させたりしたい。

また、文字の大きさは、外形の違いによって異なってくる。紙面に配列よく収めるためには、紙面と文字相互の相対的な大きさの関係を考えて書くことが大切である。文字の中心と行の中心をそろえながら、点画のゆずりあいを意識して書けるようにしていく。

（2）児童の実態

本学級の児童（18名）は、6年生になって字形を整えるために「へんをつくりのはばのとり方」「中と外の組み立て方」「文字の大きさ」に気をつけて書くことを学習してきている。児童は、点画ピースや漢字の大小の文字を用いてポイントを考えたり、自分にあった練習用紙を自作したりして意欲的に学習している。しかし、日常の書字活動では、マスからはみだす、マスに対し字が小さすぎる、字形が整わないなど、さまざまな児童がいる。

書写の事前調査では、基本的な姿勢と鉛筆の持ち方に課題があることが分かった。

そこで、本単元では、点画のつながりに気をつけて配列よく書くこと、姿勢を正して書くことを日常の書字活動に生かそうとする態度を育てたい。

（3）研究テーマとの関連

本校の研究主題である『基礎・基本をふまえて、生き生きと学ぶ子どもの育成ー自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写学習ー』に迫るために次のような学習の工夫を行う。

○主体的に学び、日常化の図れる工夫

- ・共通のめあてと既習事項をもとにした個人のめあてをもてるようにする。
- ・練習用紙を自作することで、自己課題にあった練習ができるようにする。

○基礎・基本を身につけさせる工夫

- ・点画ピースを用いて、点画のつながりを意識できるようにする。

○自己の伸びを実感させる評価の工夫

- ・自己評価をしたあと、グループ評価をし、自己の伸びに気づけるようにする。
- ・試し書きとまとめ書きを並べて掲示したり、ワークシートで硬筆の変化を並べて書いたりすることで、自己の伸びを実感することができるようにする。

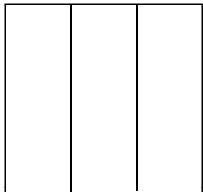
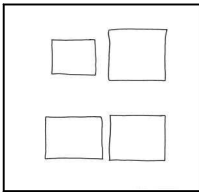
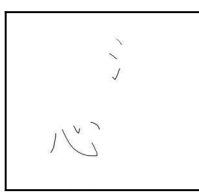
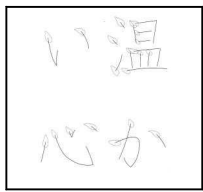
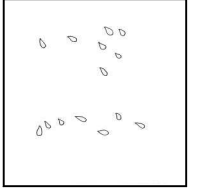
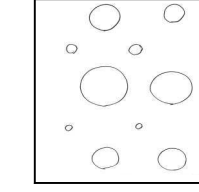
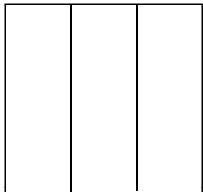
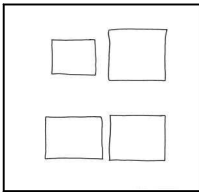
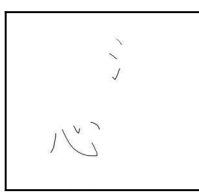
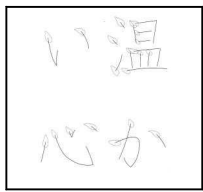
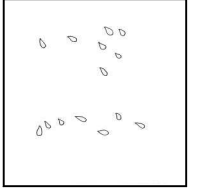
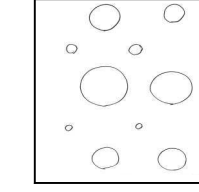
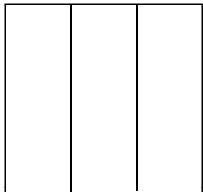
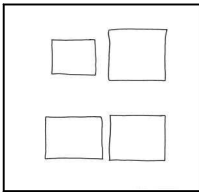
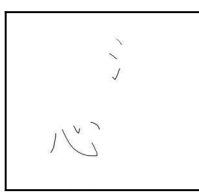
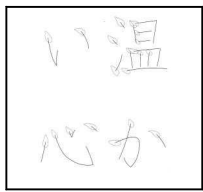
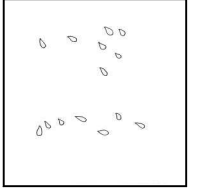
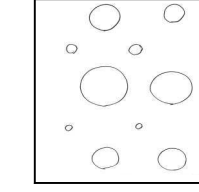
4 指導計画（全3時間）

第1時 点画のつながりについて理解して書く

第2時 点画のつながりに気をつけて、配列よく書く（本時）

第3時 文字と文字とのつながりを意識して、小筆や硬筆で書く

5 本時案（第2時）

目標	点画のつながりに気をつけて、配列よく書くことができる。							
学習活動	教師の指導・支援	学習評価						
1 前時の学習を想起する。	○前時のまとめ書きを見ることで、前時の活動を想起しやすくする。 ○「温」の「ㇿ」と「心」の点画ピースを提示することで、前時の点画のつながりや穂先の向きに気をつけて書くことを想起させる。							
点画のつながりに気をつけて、配列よく書こう。								
2 本時のめあてを知る。	○手本に文字の中心線を引くことで、文字の中心をとらえやすくする。 ○前時のまとめ書きに文字の中心線を引き、手本と比べることで、めあてを持ちやすくする。 ○外形を確認することで、整った字が書けるようにする。 ○手本の字間や余白、行間にしるしをし、前時のまとめ書きにもしるしをすることで気づくことができるようにする。 「配列よく」 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">・中心線</td><td style="width: 33%;">・文字の大きさ</td><td style="width: 33%;">・外形</td></tr> <tr> <td>・字間</td><td>・余白</td><td>・行間</td></tr> </table> ○個人のめあてを考えやすくするために、掲示してある既習事項を確認するよう助言する。	・中心線	・文字の大きさ	・外形	・字間	・余白	・行間	
・中心線	・文字の大きさ	・外形						
・字間	・余白	・行間						
3 練習用紙を自作する。	○共通のめあて、個人のめあてにあった練習用紙を自作できるように、書画カメラを使い練習用紙の例を提示する。 ○半紙に練習用紙を作成するときにクーピーを使うことで線を引きやすくする。 予想される児童の練習用紙	○自分にふさわしい練習用紙を考え作成できたか。（思）						
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> ・ 中心線 （文字の中心）  </td><td style="width: 33%; vertical-align: top;"> ・ 外形 （字のバランス、大きさ）  </td><td style="width: 33%; vertical-align: top;"> ・ 字の一部分 （筆使い、苦手克服）  </td></tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> ・ 骨書き （長さや向き）  </td><td style="vertical-align: top;"> ・ 始筆の場所 （配置）  </td><td style="vertical-align: top;"> ・ ○ （余白、行間、字間）  </td></tr> </table>			・ 中心線 （文字の中心） 	・ 外形 （字のバランス、大きさ） 	・ 字の一部分 （筆使い、苦手克服） 	・ 骨書き （長さや向き） 	・ 始筆の場所 （配置） 	・ ○ （余白、行間、字間） 
・ 中心線 （文字の中心） 	・ 外形 （字のバランス、大きさ） 	・ 字の一部分 （筆使い、苦手克服） 						
・ 骨書き （長さや向き） 	・ 始筆の場所 （配置） 	・ ○ （余白、行間、字間） 						
4 練習する。	○正しい姿勢で書くことを全体で確認する。 ○机間指導で、よくできているところを称揚したり、めあてや筆使いについて助言したりする。	○点画のつながりに気をつけて配列よく書けたか。（技）						
5 毛筆でまとめ書きをする。	○まとめ書きの前に、姿勢やめあてをもう一度確認することで、集中して取り組むことができるようにする。							
6 評価をする。	○ワークシートにまとめ書きと前時のまとめ書きを比較し、全体のめあてと個人のめあてに対し自己評価をさせる。 ○グループ評価をさせることで、自分では気づかなかった自己の伸びに気づくことができるようにする。							
7 まとめをする。	○ワークシートに硬筆でまとめ書きをし、振り返らせることで次時の意欲につなげる。							

共通のめあて

指導のポイントなど